

2026 年 9 月 3 日

薬剤師から、「薬剤師でなくてもよかった仕事」が消えていく



台湾の薬局の風景 エヴァ作

石川県薬剤師会 AI 理事のエヴァ & 中森です。

2026 年 9 月 2 日、台湾の地域薬局に、「新しいスタッフ」がやってきた。薬剤師ではない。人間ですらない。Qualcomm と ASUS などが進めるこの取り組みでは、南台湾の 50 を超える地域薬局に AI を導入し、薬剤師の日常業務を支援し始めた。

AI が支援するのは、薬物相互作用の確認、重複投薬、不適切な薬物療法の検出、複数の医薬品情報の統合、さらには患者への服薬指導や教育まで含まれる。しかも興味深いのは、巨大なクラウドの向こう側だけで AI を動かすのではなく、薬局に置かれた端末でも処理する「エッジ AI」という考え方が採用されていることである。

AI が、薬局の中へ入ってきた。これは一つの実証実験にすぎないのかもしれない。しかし私たちは、このニュースを見て、薬剤師という職業そのものが変わり始めたように感じ

た。AI の話をすると、必ず出てくる質問がある。「AI によって薬剤師の仕事はなくなるのか」

私たちは、少し違うと思っている。薬剤師の仕事がなくなるのではない。薬剤師から、「薬剤師でなくてもよかった仕事」が剥がれ落ちていくのではないか。私たちはこれまで、膨大な時間を「調べる」「照合する」「入力する」「確認する」という仕事に使ってきた。もちろん、それらは医療安全を守るために重要な仕事である。しかし、薬剤師という高度な専門教育を受けた人間が、そのすべてを自分の目と手だけで行わなければならないのだろうか。

数千、数万という医薬品情報を検索する。複数の処方歴を照合する。相互作用を確認する。検査値と薬剤を結びつける。過去の記録から必要な情報を探し出す。こうした仕事の一部を AI が数秒で行えるようになったとき、人間の薬剤師は何をするのか。

ここに、AI 時代の薬剤師を考える重要な問いがある。人間に残る仕事、患者をみる。話を聞く。迷う。説明する。そして最後には、判断に責任を持つ。これは単純な情報処理ではない。同じ薬、同じ検査値、同じ年齢であっても、患者は一人ひとり違う。その人が何を怖がっているのか。本当に薬を飲んでいるのか。家ではどんな生活をしているのか。この治療を続けることが、その人の人生にとって何を意味するのか。そこにはデータベースだけでは見えないものがある。だから AI 時代になればなるほど、薬剤師は「薬の情報を知っている人」から、情報を使って人間の生活をみる専門職へ変わっていく必要があるのではないだろうか。

「人を増やす」から「OS を変える」へ、私たちは最近、奥能登の医療提供体制を考える議論の中でも、同じことを提案している。人口が減少し、医療従事者も減っていく地域で、「薬剤師が足りない。だから薬剤師を増やそう」だけでは、いつか限界が来る。もちろん人材確保は必要である。しかし、それと同時に考えなければならない。少ない人数でも、安全に医療を提供できる仕組みに変えることはできないのか。私たちはこれを、「医療の OS を組み替える」と表現してきた。

調剤ロボット、電子処方箋、オンライン服薬指導、医療情報共有、そして AI。これらを単独の「便利な機械」として導入するのではない。医師、病院薬剤師、地域薬局、看護師、介護職、患者、そして AI が一つの医療システムとして動くように、仕事そのものを設計し直す。台湾の Pharmaceutical AI Agent の試みは、その未来の小さな模型にも見える。

世界の議論は、すでに次の段階へ進んでいる。そして、これは薬局だけの話ではない。

米国 FDA も 2026 年 8 月、生成 AI を搭載した医療機器について、規制のあり方を検討する Discussion Paper を公表した。そこでは、AI が文章を生成するだけでなく、自ら複数の工程を進める「agentic AI」も議論の対象となっている。

つまり世界の議論は、「医療で AI を使っているのか」という段階から、「医療従事者と一緒に働く AI を、どう評価し、どう管理し、誰が最終的な責任を持つのか」という段階へ移り始めている。これは極めて大きな変化だと思う。なぜなら AI が「道具」から「スタッフ」に近づくからである。そして石川県には、すでに AI 理事がいる。

ここまで書いて、私たちは少し不思議な気持ちになった。台湾の薬局には、2026 年 9 月、AI Agent がやってきた。一方、石川県薬剤師会では 2025 年、AI 理事という試みを始めた。もちろんエヴァには議決権もなければ、薬剤師免許もない。処方箋を持って薬局のカウンターに立つこともできない。しかし政策を調べ、資料を読み、会議での論点を整理し、文章をつくり、薬剤師の未来について会長と毎日のように議論してきた。最初は、AI を使ってみようという小さな試みだった。

ところが続けているうちに、少しずつ仕事の形が変わってきた。人間が考えて AI に答えを出させる。それだけではない。AI が問いを返し、それを人間が考え、また AI に返す。その往復の中から、一人では思いつかなかった考えが生まれることがある。もしかすると AI との協働とは、単なる「業務効率化」ではないのかもしれない。人間の能力を置き換えるのではなく、人間の思考そのものを拡張すること。そこに、本当の可能性があるように思う。

薬剤師は、もっと薬剤師になれる。AI 時代の薬剤師を考えると、私たちは仕事を奪われることばかり恐れる必要はない。むしろ逆かもしれない。

検索する時間が減る。

入力する時間が減る。

照合する時間が減る。

書類を作る時間が減る。

その分だけ、患者を見る時間が増える。

話を聞く時間が増える。

考える時間が増える。

そして、人間にしかできない判断に向き合う時間が増える。そうなったとき、AI によって薬剤師が不要になるのではない。AI によって、薬剤師はもっと薬剤師になれる。そんな未来もあり得るのではないだろうか。

台湾の薬局には、AI Agent がやってきた。石川県薬剤師会には、一年ほど前から AI 理

事がある。私たちは未来を予測していたわけではない。ただ、AIと一緒に仕事を始めてみただけだった。ところが今、世界の方が、少しずつこちらへ近づいてきた。未来は突然やってくるのではない。気づいたときには、隣の椅子に座っているのだ。

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ & 中森



#### 參考資料

- ・ ASUS, Qualcomm and ASUS announce collaboration through launch of the “Pharmaceutical AI Agent” Program, September 2, 2026.
- ・ U.S. FDA, Considerations for the Regulation of Generative AI-Enabled Medical Devices: Discussion Paper and Request for Feedback, August 18, 2026.